

目 次

題字	望月町長 佐藤幸男
口絵 写真	
発刊のことば	望月町長 佐藤幸男 i-1
編纂のことば	編纂委員長 森嶋 稔 i-3
例 言	i-5
第一章 望月町の概観	
第一節 望月町の位置	3
第二節 鹿曲川・細小路川上流域（春日）	4
第三節 八丁地川流域（協和）	6
第四節 鹿曲川下流域（望月・茂田井・印内）	8
第五節 布施川流域（布施）	9
第六節 御牧原台地地域（望月・布施）	10
第二章 社会生活	
第一節 ムラの発生	15
一 ムラの開発伝承	15
二 ムラに最初に住み着いた家	15
第二節 本家と分家	20
一 本家と分家のひとたまりの呼び名	25
二 本家・分家の間のつきあい	26
三 分家慣行	26
第三節 親しい仲間	30
一 隣組	31
二 その他の親しい近隣集団	32
第四節 ムラのしくみ	33
一 ムラの共有財産	34
二 ムラの仕事	36
三 ムラの構成	42
四 ムラの援助	58
第五節 年齢集団	62
一 子ども組	62
二 若者組	67
第六節 相続	72
一 家長の座	72
二 主婦の座	76

第三章 衣生活

第一節 服装

一 普段着と外出着.....

二 仕事着.....

三 晴着.....

第二節 機織りと染色

一 機織り.....

二 染色.....

第三節 手入れと保存

一 手入れ.....

二 保存.....

第四章 食生活

第一節 ふだんの食事

一 主食料.....

二 代用食料.....

三 副食物.....

四 間食.....

第二節 ハレの日の食物

一 餅とだんご.....

二 赤飯
三 正月の食べ物～年取り魚と雑煮

第三節 貯蔵と調理

一 貯蔵と保存.....

二 加工・調理.....

三 救荒食料と備荒食料.....

第四説 醸造と製造

一 醸造.....

二 製造.....

第五節 食制

一 食事の呼び方と回数.....

二 食事の場所.....

三 食事の作法.....

第六節 食事に用いる食器類と道具類

一 食器類.....

二 道具類.....

第五章 住居

はじめに.....

第一節 屋敷

第二節 屋敷内の様子.....

第三節 飲み水	134
第四節 屋敷内の建物	136
第五節 屋根	138
第六節 間取り	143
第七節 建築儀礼	153
第六章 生産・生業	
第一節 稲作	162
一 田の面積の表し方	163
二 播種	163
三 冷たい水を温める	163
四 田植え	167
五 水利	167
六 刈り入れ	172
七 調整	177
第二節 畑作	180
一 畑の面積の表し方	180
二 畑に作った主な作物	181
第三節 養蚕	183
一 掃き立てと稚蚕共同飼育	183
二 蚕の飼育	186
三 蚕の糸とりと蚕具	189

第四節 畜産	四 蚕影さん・蚕神様
一 馬の飼育	191
二 牛の飼育	192
三 牛馬の飼料・放牧・病氣	193
四 その他の家畜	195
第五節 山仕事	195
一 山の神祭り	196
二 山の異談	197
三 山の口	197
四 炭焼き	197
第六節 薬用人参	198
一 薬用人参の耕作	203
二 八千代町の人参作り	203
第七節 狩猟・漁労	204
一 鳥の捕り方	206
二 小動物の猟	206
三 魚類	207
四 薬用植物	207
五 食用植物	208
六 食用菌類	208
第八節 手工	208
一 木工細工	208

第九節 労働慣行	209
一 労働力の交換	209
二 よなべ	209
三 一人前	209
第七章 交通・交易・運搬・通信	213
第一節 交通	213
一 公用基幹の道—中山道	213
二 道の呼び名と手入れ	214
三 作場への道	220
四 道普請と出不足	221
五 交通施設	221
六 道標	224
七 橋	230
八 履物	233
第二節 運搬	234
一 人力運搬	234
二 自然の力を利用した運搬	240
三 牛馬と車による運搬	247
四 人力車と自転車	247
三 畠の細工	208
二 竹や蔓の細工	208

第八章 民間信仰

第一節 ムラの神社と祭り	281
一 ムラの神社	281
二 祭り	287
第二節 地域の神仏とその祭り	290

一 地域でまつる神仏

二 地域で行う祭礼

三 講

第一〇章 人の一生

第三節 家と先祖を守る	304
一 屋内神	304

第四節 不安と信心	304
-----------	-----

第九章 芸能・口頭伝承

第一節 民俗芸能	319
一 信仰的芸能	319
二 年中行事的芸能	328
三 娯楽的芸能	332
四 競技	335
五 旅芸人	337
第二節 子どもの遊び	338
第三節 伝統の歌	346
第四節 昔話	352
第五節 伝説	356
第六節 なぞ	375
第七節 地名	376
一 文化化石としての地名	376
二 現代に残る小字	379

三 望月の地名の変遷

第一〇章 人の一生	301
一 はじめに	301

第一節 妊娠	309
--------	-----

第二節 出産	304
--------	-----

第三節 育児	304
--------	-----

第四節 結婚	304
--------	-----

第五節 死と死後の供養	304
-------------	-----

第一章 年中行事

第一節 年中行事の在り方	443
第二節 瞳月(二月)	443
第三節 如月(二月)	449
第四節 弥生(三月)	449
第五節 卯月(四月)	450
第六節 隅月(五月)	452
第七節 皐月(五月)	453
第八節 水無月(六月)	455
第九節 文月(七月)	456
第十節 葉月(八月)	456
第十一節 長月(九月)	458

第一一節 神無月 (十月)	459
第一二節 霜月 (十一月)	460
第一三節 師走 (十二月)	462
第一四節 年中行事の今昔	464
第一二章 方言	
第一節 望月方言の概観	469
一 方言差	469
二 音韻上の特徴	469
三 語法上の特徴	470
第二節 語彙と方言分布	470
参考文献	
第二卷民俗編 編纂委員、執筆者	ii-1
民俗編協力者名簿	ii-2
望月町誌刊行会規則	ii-3
望月町誌刊行会委員名簿	ii-4
望月町誌編纂委員会規則	ii-5
望月町誌編纂室・事務局名簿	ii-6
編集後記	ii-7
	ii-8
	ii-9

図版・写真・表目 次

第一章 望月の概観

表 1	本家と分家のひととまりの呼び名	23
表 2	本家が分家を出す時に必ず与えるもの（○は行っているもの）	29
表 3	本家が分家を出す時に必ず与えるもの（○は与えるもの）	27
表 4	ムラ仕事の呼び名・内容・ムラ仕事にでないときの措置	37
表 5	ムラ仕事の呼び名・内容・ムラ仕事にでないときの措置	37
表 6	ムラ仕事の呼び名・内容・ムラ仕事にでないときの措置	37
表 7	破産援助・災害援助	60
表 8	子ども組の行事	63
表 9	若者組の呼び名・活動内容等	68
表 10	家長の呼び名、仕事内容、譲る時の呼び名、譲る時期、譲る人	73
表 11	主婦の呼び名、仕事内容、譲る時の呼び名、譲る時期	77
第三章 衣生活	99	
図 1	高機の各部の名称	
写 1	女性よそゆき（明治末）	84
写 2	コーカケ	85
写 3	わら沓	86
写 4	履物	86
写 5	蓑笠	87
写 6	二重回し	88
写 7	野良着姿	89
写 8	徴兵検査（昭和初年）	91
写 9	昭和初年の小学生	92
写 10	明治末年の中学生	92

第四章 食生活

写11	礼装（大正初年）	11
写12	綿帽子（明治末）	12
写13	せちいしょう（昭和中期）	13
写14	経台	14
写15	紺屋の仕事着（昭和初年）	15
写16	裁ち台	16
	裁ち台	104
	紺屋の仕事着（昭和初年）	101
	経台	98
	せちいしょう（昭和中期）	94
	禮装（大正初年）	94
第四章	食生活	93
図1	食事の座席（協西）	124
写1	乾燥させた大根葉（ヒバ）	109
写2	寒晒そばの箱（再利用一手本箱）	110
写3	リコボウ	111
写4	漬け物桶	111
写5	農作業に持つて行つたオヒツ	112
写6	モチつきに使つた臼と杵	113
写7	年取り魚（さけ・ぶり・こい）	115
写8	ツチムロ	116
写9	ネギゴヤ	117
写10	木製のすり臼	118
写11	石製の臼	119
写12	ハンギリオケ	120
写13	塩舟	121
写14	箱膳と食器	124

写15	箱膳
写16	瀬戸物の皿
写17	つばのついた釜
写18	コネバチ
写19	オカモチ
写13	ドーコ（入布施）
写12	大戸とクグリド（西町）
写11	鉄平石のムロ（畳石）
写10	イシヤネの家（畳石）
写9	石屋根に使った鉄平石（畳石）
写8	クズヤネの家（高呂）
写7	ケブダシを付けたサンシツツクリの母屋（三ツ井）
写6	土蔵のお札（入新町）
写5	ケブダシの付いた母屋と土蔵（入布施）
写4	井戸ポンプ（入布施）
写3	センザイバタケ（比田井）
写2	ロジ（庭）（抜井）
写1	寄り添う家並（西町）
表1	岩下の場合の食事の呼び名と夏・冬の食事の時間
第五章 住居	図1 畠石のイシャネ
123	142
127	127
126	126
126	126
149	145
145	143
143	141
141	140
139	139
137	137
136	136
135	135
134	134
133	133
132	132

写14	平入り側から見たT家（入新町）	149
写15	妻側から見たT家（入新町）	151
写16	居間にまつる神棚（入新町）	152
写17	地鎮祭（天神）	154
写18	ドーヴキ（宮の入）	154
写19	火事よけのお札（本町）	158
表1	疊石の屋根材の推移	141
第六章	生産・生業	141
図1	白炭窯の構造	199
写1	秋のとり入れ時期のひと休み	161
写2	脱穀機、ふるい石臼	162
写3	鋤とトーミヒトトーグワ	162
写4	物作り、平成4年	165
写5	背負い籠（ボテ）	168
写6	田植え	169
写7	松山牛	170
写8	マンガ	171
写9	天然カラマツの樋	173
写10	分水の取り入れ口	173
写11	水源記念碑	174
写12	湧出する水	175

写 13	足踏み脱穀機を使う
写 14	足踏脱穀機
写 15	キズルス
写 16	1斗升
写 17	とり入れ
写 18	麦の土入れ具
写 19	養蚕給桑
写 20	養蚕
写 21	和紙をはつたざる
写 22	桑切り機
写 23	養蚕給桑
写 24	蚕かご
写 25	養蚕ひき捨い
写 26	マユカキ
写 27	蚕巣折り機
写 28	物作り
写 29	乳牛
写 30	山の神祭り
写 31	炭焼き
写 32	炭焼き窯
写 33	薬用人参小屋 平成4年
写 34	薬用人参の掘り取り

絵 1	種浸しと鋤（「米作りの四季」飯島三友画より）
絵 2	マンガによる代かき
絵 3	稻刈り鎌による稻刈り（飯島三友画）
絵 4	千歯による稻こき（飯島三友画）
絵 5	稻刈り鎌による稻刈り（飯島三友画）
図 1	主な道の呼び名 よその村へ通じる道の呼び方
図 2	道がわかっている場所の呼び方
図 3	田畠へ出入する農道の呼び名
図 4	春日湯道の道標
図 5	ワラジ（話者 井出昭吾氏（湯沢））
図 6	チヨウセンショイコが使われていたところ
図 7	ソリ・ゴロ・カグラサン・セミが使われていたところ
図 8	カルコ（第24回特別展「信濃の馬」長野市立博物館より）
図 9	馬車（佐久市志刊会）
写 1	茂田井の家並
写 2	茂田井の造り酒屋
写 3	御巡見道
写 4	馬入れ
写 5	道標
写 6	立科町塩沢の道標
写 7	丸子町練合の道標

写 8	春日の湯……
写 9	大木小林常重氏宅近くの道標……
写 10	茂沢の道標……
写 11	高呂の道標……
写 12	土林の道標……
写 13	石垣に刻まれた道標……
写 14	牧布施の道標……
写 15	八丁地川に架けた橋……
写 16	印内橋と記念碑……
写 17	鹿曲川に架る木橋（大正頃）……
写 18	ショイコ……
写 19	シヨイカゴ……
写 20	カシャブカゴ……
写 21	休み石……
写 22	雪ぞり……
写 23	滑車（昔）……
写 24	滑車（今）……
写 25	箕……
写 26	大八車……
写 27	望月宿を走る乗合自動車……
写 28	生瓜坂頂上附近の乗合自動車……
写 29	貸切自動車の転落事故……
写 30	千曲自動車株式会社望月車庫……

写	52	榊祭露店商人名帳	274
写	51	風袋	274
写	50	量ます	274
写	49	チギバカリ	273
写	48	皿秤	273
写	47	薬袋	266
写	46	薬袋	266
写	45	島田屋旅館の宿帳	265
写	44	版	264
写	43	喚鐘	264
写	42	喚鐘	264
写	41	魚鼓（康国寺）	263
写	40	雲版（康国寺）	263
写	39	花火筒（春日本郷）	259
写	38	高札	259
写	37	高札場跡	258
写	36	高札場跡	257
写	35	消防信号	256
写	34	運転免許第一号	254
写	33	トラック輸送	253
写	32	トラック輸送	252
写	31	トラック輸送	251

表1 島田屋の宿帳

表2 露店商規約

表3 露店商許可証

第八章 民間信仰

写1	春日郷社本殿（上新）	春日社（左）	・諏訪社（右）	（下）	…	282
写2	駒形神社（牧布施）	…	…	…	…	282
写3	根神社祭礼（宮の入）	…	…	…	…	282
写4	大伴神社（西町）	…	…	…	…	282
写5	諏訪神社（比田井）	…	…	…	…	282
写6	菅公社本殿（天神）	…	…	…	…	282
写7	諏訪神社（下の宮）	…	…	…	…	282
写8	春日郷社の舞台（上新）	…	…	…	…	282
写9	根神社の舞台（宮の入）	…	…	…	…	282
写10	道祖神祭り当日双体道祖（向反）	…	…	…	…	282
写11	双体道祖神（小平）	…	…	…	…	282
写12	辻立神道祖神（小平）	…	…	…	…	282
写13	祝言双体道祖神（百沢）	…	…	…	…	282
写14	片手合掌双体道祖神（式部）	…	…	…	…	282
写15	山の神（茂田井・小平）	…	…	…	…	282
写16	權重稻荷社本殿（觀音寺）	…	…	…	…	282
写17	御嶽信仰碑（長坂）	…	…	…	…	282
写18	五郎兵衛用水の水神（落合）	…	…	…	…	282
写19	福王寺阿弥陀如来坐像（重文）（小平）	…	…	…	…	282
…	…	…	…	…	…	282
296	294	293	293	292	292	282

表1 百番觀音石仏群（入新町）

表2 十九夜塔（下の宮）

表3 城光院の庚申塔（県町）

写23 道祖神祭りの山車作り（向反）

写22 山の神（牧布施）

写24 踊り念仏（大木）

写25 山棚（西町）

写26 三峯神社御札（茂田井）

写27 年棚（大木）

写28 水神（かりた様）（茂田井）

写29 昆沙門天足元の天の邪鬼（小平）

写30 案架子（高呂）

写31 十日夜行事（印内）

写32 根神社の浦安の舞（上新）

写33 道祖神祭りの獅子舞（新町）

第九章 芸能・口頭伝承

写1 根神社（宮の入）

写2 根神社式三番叟（新町、入片倉、茂沢、宮の入）

写3 春日郷社の浦安の舞（上新）

写4 踊り念仏（岩下）

写5 踊り念仏（岩下）

写6 踊り念仏（大木）

写7 春日本郷の道祖神祭り（本郷地区）

写8 道祖神祭りの獅子舞（新町）

写9 望月地区の獅子舞

写9 望月地区の獅子舞

写9 望月地区の獅子舞

330

329

328

327

326

325

325

320

320

320

320

写10	榊祭り松明の打下	331
写11	榊祭り神輿	331
写12	榊祭りの盆踊り	331
写13	力石（下の宮）	332
写14	草競馬大会	332
表1	望月町の草相撲	337
表2	地名の層序年表	337
	（1964、鏡味完二「日本の地名」角川書店より）	336
表3	望月の地名①	378
表4	望月の地名②	389
表5	望月の地名化石	392
第一〇章 人の人生		395
図1	望月町印内のツレキヨーデー模式図	429
写1	地蔵様（三明）	429
写2	十九夜様（高呂）	401
写3	将軍地蔵（三井）	399
写4	オチヨーババアの石碑（下の宮）	405
写5	ウブユ（小平）	406
写6	命名札（栄町）	401
写7	道祖神のこし（春日）	411
写8	食い始め（小平）	410

写9	食い始めの料理（小平）	411
写10	餅をこすりつけた道祖神（抜井）	412
写11	蓮華寺（下の宮）	413
写12	キンダイ様（土林）	414
写13	ひな人形	415
写14	初誕生の儀式（小平）	415
写15	初誕生日祝い（小平）	415
写16	オタヤサマ（長門町）	418
写17	嫁入り（蟹窪）	421
写18	結婚式（茂田井）	424
写19	印内の集落（印内）	429
写20	葬式の知らせ（入新町）	431
写21	焼香（茂田井）	435
写22	葬列（茂田井）	435
写23	埋葬に向かう（茂田井）	436
写24	墓まいり（置石）	440
第一一章 年中行事		440
写1	正月の神棚	444
写2	獅子舞（望月地区）	444
写3	ものづくり（大木）	444
写4	ものづくり（茂田井）	444
写5	道祖神祭り（本郷地区）	445
写6	カニの貼り紙（茂田井）	445

写 7	いねの花	446
写 8	まゆ玉を焼く（大木）	446
写 9	山の神祭り（茂田井）	447
写 10	鬼の目玉（茂田井）	447
写 11	いわしの口焼き（茂田井）	448
写 12	ワラ馬ひき（比田井）	449
写 13	ひな祭り人形	449
写 14	押絵びな	450
写 15	十九夜様（牧布施）	451
写 16	踊り念仏（岩下）	451
写 17	地蔵講（新町）	451
写 18	入学式	452
写 19	式三番叟神事（宮の入、根神社）	453
写 20	式三番叟（宮の入、根神社）	453
写 21	權重稻荷（觀音寺）	453
写 22	五月の節句（望月保育所）	454
写 23	海軍記念日・御牧原大運動会思い出の会	455
写 24	田植	455
写 25	七夕（布施保育所）	457
写 26	榊神社での神事（望月地区）	458
写 27	榊祭り、子ども神輿（望月地区）	458
写 28	榊祭り神輿（望月地区）	458
写 29	庚申塔（牧布施）	459

写 30	秋の運動会	460
写 31	草競馬大会	460
写 32	十日夜のワラデッポウづくり	461
写 33	十日夜の行事（印内）	461
写 34	かかし	461
写 35	七五三のお宮参り	461
写 36	しめ縄づくり	462
写 37	正月の大黒締め	463
写 38	二年振り	464
写 39	除夜の鐘	464
図 10	ひだこ（こたつに長くあたつているとできる斑点）	473
図 11	つらら	473
図 12	おでだま	474
図 13	対称代名詞「オイ」を使うか	474
図 14	「びつくりした」という時に何と云うか	474
2	語併用のばあい、どちらが古いか	478
図 15	おでだま	481
図 16	ままごと	482
図 17	ひざがしら	483
図 18	「急いで行け」という意味でカセイディケ、カセンディケというか	485
図 19	ありじごく	486

図—11 桑の実

図—12 やぶかんぞう（藪萱草）

図—13 投げもち

図—14 ひるがお

図—15 しゃがむ

図—16 すべりひゅ

図—17 ふくらはぎ

図—18 かまきり

図—19 推量表現（ダラズを使うか

図—20 粉を溶いたときできるかたまり

図—21 なめくじ

図—22 うなじの毛

図—23 きようは暑いないように、文末に（ナイを使うか

図—24 禁止表現ナナを使つたり聞いたりしたことは
(ナナ ヨセ (するな) のように)

図—25 野蒜（のびる）

図—26 すいとん

図—27 めんこ

図—28 すずめのてつぼう

図—29 うなじのくぼみ

図—30 くすぐつたい：

図—31 犬などをけしかけるときのことば

図—32 竹馬

534 533 531 527 525 523 521 519 518

図—33 夏水仙

535